

令和7年度（2025年度） 今治北高校大三島分校 シラバス

教科	公民	科目	公民基礎	学年	第2学年	類型	Ⅱ型文系
単位数	1 単位	教科書	ニュース検定 公式テキスト＆問題集「時事力」基礎編（毎日新聞）				
補助教材							

学習目標	人間と社会の在り方について見方、考え方を働かせ、現代の諸課題を追及、解決する活動を通して以下の資質能力の育成を目指す。 1 諸資料から必要な情報を効果的に調べまとめる能力。 2 多面的・多角的な視野および公正な判断力、社会参加を視野に入れた議論する力。 3 現代社会に生きる公民としての自覚。
------	---

学期	月	単元	学習内容・単元の目標	定期 考査
1 学期	4月	政治 1 私たちの民主主義	・日本の政治や選挙の特徴を理解するとともに、その現状と動向を把握し社会へ参画する公民としての姿勢を身に付ける。	期末考査
	5月	2 日本国憲法の行方 3 どうなる外交と防衛	・日本国憲法の基本と改正手続きについて理解する。また改憲について自身の考えを深め、表現する。 ・外交と防衛にかかる問題について、基地問題や北方領土問題、ウクライナとロシアの関係など現実社会の諸問題をもとに理解を深める。	
	6月	4 地方自治のいま 経済 5 足踏みする日本経済	・地方自治の学習を通し、過疎化や東京一極集中の現状を理解する。 ・物価の上昇や円安など現実社会の諸問題から、日本経済への理解を深め、その課題について多面的・多角的に考察、構想する。	
	7月	6 混迷する世界経済 7 日本産業のいま 8 脱炭素社会への道のり	・世界的なインフレやFTAの動向など世界経済の諸課題を理解する。 ・円安による日本経済への影響および日本産業の特徴を理解する。 ・脱炭素社会に向けた再生可能エネルギーの動向を把握するとともに、原発利用の状況や課題について理解し、自身の考えを表現する。	
	8月	暮らし 9 減り続ける日本の人口 10 社会保障のこれから 11 働くということ 12 消費生活を豊かに 社会・環境 13 子どもと教育のいま 14 共に生きる社会へ 15 司法と私たちの社会 16 情報社会に生きる 17 いのちの現場から	・少子高齢化の現状と少子化対策の施策について理解する。 社会保障制度と少子化による影響について理解し、持続可能なあり方に向けて考察する。	期末考査
	9月		・労働者の権利と日本の働き方について理解を深め、社会参画する力を身に付ける。	
	10月		・消費生活について理解を深め、一人の消費者として自覚をもつ。	
	11月		・現代の子どもが抱える児童虐待やいじめなどの問題について理解を深め、解決に向けて多面的・多角的に考え、説明する。	
	12月		・多様化していく日本の現状について理解し、誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて主体的に考え、表現する。	
			・日本の司法制度について理解するとともに、より良い社会の実現のための司法参加の意義について考察する。	
			・情報社会の動向を理解し、メディアリテラシーを身に付ける。	
			・感染症や薬物使用など現実社会の諸問題を理解する。	
3 学期	1月	18 災害と日本 19 地球環境を守るために 国際 20 平和な世界どうやって	・近年の自然災害についての学習を通し、防災意識を身に付ける。 ・地球規模の環境問題や公害に対し、その原因や対策を多面的・多角的に考察し、表現する。	学年末考査
	2月	21 核兵器と向き合う世界 22 大国と国際社会の行方	・ウクライナ侵攻やパレスチナ問題といった現実社会の諸問題に対する学習を通し、国際連合の役割や課題について理解する。 ・冷戦時やウクライナ侵攻などから核兵器に対する取り組みの動向を理解するとともに、核廃絶に向けた日本の役割について考える。 ・各国の政治体制について理解し、大統領選や中国の強権体制、EUの動向など現実社会の諸問題に目を向け、考えを巡らせる。	
	3月			

学習の方法	授業内容をしっかりと理解することはもちろんですが、得た知識を現代の諸問題に関連させたり、発問やグループワークに主体的に取り組み、知識をアウトプットしたりすることも重要になります。そのために、普段から時事ニュースに関心を持ち、社会で起こるさまざまな出来事について自らの問題として考えていく習慣を身に付けましょう。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に取り組む態度
	現代の諸課題について考えを深め、その知識を身に付けている。また諸資料から、活動するために必要な情報を適切に調べ、活用している。	現実社会の諸課題の解決に向けて、多面的・多角的な広い視野をもって考察し、合意形成、社会参画を視野に入れた議論ができています。	現実社会の諸課題に対し関心を高め、追及するとともに、社会参画する主体として、対話、協働する態度を身に付けている。
評価方法	・授業態度、グループワークの参加度や授業プリントの活用状況を点検して評価します。 ・資料をもとに、思考・判断する能力を小テストや定期考査の問題等で評価します。		